

全力を尽くした先に あるものを手にしてほしい

道具委員、美化風紀委員に盛り上げ委員一。平沢監督は新チーム結成を機に、目標に据える「全員野球」を実現するため、選手みんなに役割を与えた。ナインはそれぞれの立場でチームに何ができるかを改めて考え、実行。20年秋の東海大会では1勝ごとに結束力を強め、5試合中3試合が1点差という厳しいトーナメントをものにして初優勝をつかみ取った。

指揮官は名門・福井商2年時に夏の甲子園に出場した。そこで「日頃の練習、取り組みがきちんとできていないと、大舞台でミスをする」と痛感、キャッチボールをはじめ基本中の基本を特に大事にしてきた。また、ノックの名手として知られた恩師・北野尚文元監督に追い付け、追い越せとノッ

クバットを振り、打球への入り方、捕球姿勢など自分が得た財産を選手たちに伝え続けている。

チーム創設以来のスローガン、

「今やらなければならないことを全力で」は、名誉顧問で元・巨人投手の宮本和知氏から贈られた言葉。選手たちがそれに集中できるよう、スタッフも全力だ。毎年7月末には、リーグの垣根を越えて24～28チームが集まる「宮本和知杯福井嶺北野球大会」を開催。専用室内練習場には、野球関係の本を集めた図書コーナーを用意した。家



庭の事情で野球を諦める選手を生みたくないから、保護者の経済的負担、役割負担を減らす努力も惜しまない。「チームの方針、ルールは徹底した上で、大好きな野球を思い切りやってほしいんです」と平沢監督。その先でつかめるものが、いつかどこかで力になる。

- ① 2012年10月
- ② 清水覚(49)
- ③ 平沢文章(44)＝福井商では2年夏の甲子園に7番・二塁手で出場。学童野球のコーチ、監督を経て、18年9月から現チーム監督
- ④ 26(3年12、2年14)人

- ⑤ なし
- ⑥ 土、日曜、祝日は午前9時から午後5時、火、木曜日は午後6時半から9時まで。きららパークほか福井市内のグラウンド、13年に完成した専用室内練習場で
- ⑦ 17年藤井寺大会準優勝、19年北陸中日新聞旗争奪新人選手権大会優勝、20年福井県中学生硬式

- 野球大会優勝、東海連盟秋季大会優勝など
- ⑧ 河村拓民(天理)
- ⑨ 石丸事務局長 090(9763)0233
ホームページは福井嶺北シニアで検索